

一上座より二疊目は、盃をすゆる所也、

一客人とめの時、夜著枕筵敷疊の事、

一糞板の有所二三疊目也、略○下

〔眞要集三〕疊敷様の事

一疊にさし表さし裏有床疊は床縁にさし表成申候様に敷申候、道具疊大目ぬめ敷居の際は、水指置合るに疊の目數に合る也、疊縁曲り柱ぬめ敷居際まで、一分二分幅狭く成ても、丸目を見申候様に疊屋へ好可申候、疊の縁半目に懸らぬやうに致候、總て床前は床形に丸一疊を見申候様に敷申候、四疊半敷様は、床疊客疊踏込疊、道具疊、爐疊は半疊に切申候、然共床の付様によりて、半疊を勝手口に敷、丸一疊に爐切申事あり、それは床前丸疊を見申候様に敷申故也、風爐にはいつとても半疊を勝手口に敷申事也、又四疊半の疊敷様疊の蘭筋客疊と道具疊の縁へ眞直に通り候様に、爐如法切也、爐際の疊は縁道具疊の向の縁も際に付也、蘭筋客疊道具疊と見通す也、疊縁は幅七分也、

〔成氏年中行事 正月〕一同十一日、御評定始、略○中 御評定所ハ十五間、中ハ油磨紫縁之御疊廻敷ニテ、

衆中ノマヘツトニ半疊アリ、御坐ハ常ノ御坐ヲ紫縁ノ御タ、ミノ上ニ重テシカル、也、

〔光源院殿御元服記〕一御殿樹下殿南向也、但御座敷ハ西ヲ請セラル、北南三間、西東二間、中ノ御座敷也、疊ハマハリ敷ニテ間中通路ヲ明ラル、略○下

〔江談抄三〕疊上下事

又被談云、知疊上下、天可敷事也、面筵ヲ裏、仁折返、天閉付タルヲ上ト知也、不折、天唯付ヲ下、仁可敷也云々、

〔類聚名物考 調度四〕疊上下